

## 令和3年度事業報告書

公益財団法人名古屋みなと振興財団

## I 総括事項

公益財団法人名古屋みなと振興財団は、名古屋港における海事思想の高揚と海洋文化の普及並びにガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する各種事業を実施した。

令和3年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、感染症対策の徹底を図りつつ、適切な管理運営を行った。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大による入館料収入の減収を受けて、昨年度と同様に、飼育生物の餌代の一部を募るクラウドファンディングの実施、生き物たちの暮らしを応援していただく募金「ガチャ de 寄付」に加え、新たにクレジットカード決済による「ポチッと寄付」など、収入確保に取り組んだ。

なお、今年度末で指定期間が満了する当財団が管理する名古屋港水族館（指定期間8年）、名古屋港ポートビル、南極観測船ふじ及びガーデンふ頭臨港緑園の各施設（指定期間4年）について、新型コロナウイルス感染症による昨今の社会状況に鑑み、名古屋港管理組合との協議の結果、選定手続が1年延期されることとなった。

### 1 公益目的事業

#### (1) 海事思想及び海洋文化の普及に関する事業

##### ① 体験プログラムを通じた海洋文化の普及（資料1）

小中学生（大人含む）若しくは小学生とその家族（保護者）を対象とした水族館内でのスクール、講演会など主に水生生物に関する知識を深めるため、次の各事業を実施した。

ア 水族館ではスクールとして、例年「君もドリトル先生になれるか！」「もっと知りたい！ダーウィン教室」の2種を実施している。前者は、小学生とその家族を対象にバックヤード見学を中心とするもので、今年度も参加人数を制限するなど十分な新型コロナウイルス感染症対策を行った上で開催した。後者は、作業や実験・観察を行うものであり、密状態や接触を避けることができないため開催を中止し、代わりに「君もドリトル先生になれるか！」の実施回数を増やした（全24回）。

イ 名古屋市及び全国14都道府県で採用している小学4年生の国語の教科書（ひろがる言葉 小学国語 4下：教育出版株式会社）に、当館のウミガメに関する取組（飼育、放流調査研究等）が紹介されていることから、今年度も市内児童向けにウミガメレクチャーを実施（オンライン開催含め参加19校1,168名）した。

ウ 特別展は、12月18日から海洋環境をテーマにした「豊かな海をいつまでも～旅する水とめぐる海洋ゴミのいま～」を密集対策として会場を分散して令和4年4月10日まで開催した。更に、“ガーデンふ頭の魚”、“ナマズ”、“土用”、“当館初繁殖のアオウミガメ”、“クリスマス”、“正月・干支”、“サクラニシキ（金魚）”など時機を捉えた各種展示を行った。

エ 昨年度から開始したインターネットによるオンラインレクチャーを今年度も積極的に開催した。昨年度の実績は3件173名だったが、今年度は25件1,268

名と急増した。海外（マレーシアのジョホール日本人学校）や、来館できない遠方の学校などの依頼も多く、前述の国語の教科書を採用している東京の小学校などの依頼もあった。また、営業活動を重点的に行っている大阪府堺市の小学校向けに来館前の事前学習（または来館後の事後学習）としてのオンラインレクチャーを7校で実施した。

オ 南館3階の常設展示室「エコ・アクアリウム～海の未来を考えよう！～」と連携し、南館エントランスホールで環境問題を考えるための企画展「まったなしのプラスチック問題」を5月11日から12月5日まで開催した。併せて、昨年度に引き続き、環境教育やSDGs活動を進める関係諸機関との連携に努めた（例：愛知県：あいち環境学習プラザでのワークショップ開催。名古屋市環境局：エコパルなごやのワークショップ開催やSDGs街（マーチ）への協力など）。

## ② 機関紙等による情報提供（資料2）

ア 水族館機関紙「さかなかな」を年4回発行した。また、学習教材「かんさつノート」は、生物状況に応じて改訂し、来館した小中学生の希望者に配布した。特に教育旅行で訪れた小中学校の団体には企業協賛で増刷した簡易版を提供し、教育普及に活用した。

イ 生物情報紙「新着！海の生き物レター」は、年5回発行し、来館者に対して当館で初めて繁殖したアオウミガメに関する話題等を提供した。

## ③ 体験プログラムを通じた海事思想の普及（資料3）

広く一般を対象とし、海事に関する知識を深めるため、次の各事業を実施した。

ア 「帆船模型展」「ボトルシップ展」「ボトルシップ体験コーナー」「工作教室（3D立体カード工作教室及びペーパークラフト教室）」等の事業を実施した。

なお、例年行っている「南極教室」「南極観測船ふじでの星空見学会」等の一部事業は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

イ 親しまれる港づくりの一環として、元旦にポートビル展望室から初日の出を眺めるイベント「港から始まる2022」は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

ウ 海洋博物館の新たな取組として、学芸員による特別ガイドツアー「意外と知らない名古屋港と海の話」を実施した。

エ 当施設のSNS媒体としてフェイスブックの投稿回数を増やすとともに新規にインスタグラムを開設し、より一層のSNS媒体活用に取り組み、海事思想啓蒙普及を中心に各施設の情報発信の活性化に努めた。フォロワー数は、フェイスブック392人、インスタグラム173人となった。

オ ポートビル展望室、海洋博物館、南極観測船ふじの3施設について、各個人の持つSNS（フェイスブック、インスタグラム、ツイッター）で情報発信してもらうことを条件に3施設の無料入場券をプレゼントする「SNSで魅力発信 #名古屋港」を実施し、認知度向上を図った。

④ 学生の職場訪問の受入れ（資料 1）

ア 学生を対象とした職場訪問・体験指導などを受け入れ、水族館及び海洋博物館等での体験プログラムや解説を実施し、また、学校団体へのレクチャーを実施することにより、参加者を通じて一般市民へ海洋文化及び海事思想の普及を図る事業を例年実施している。昨年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止したが、今年度は 2 年ぶりに再開した。

イ 海洋博物館では、大学の学芸員課程を履修している学生の博物館実習を、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施した。

ウ 愛知大学にて「ミュージアム展示論」の非常勤講師として講義を行った。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、大学側の方針によりオンラインにて授業を実施した。

⑤ ボランティアの育成、活用（資料 4）

ボランティアを育成、活用することにより、当該ボランティアスタッフ及び来館者へ海洋文化及び海事思想の普及を図った。

ア 水族館のボランティア活動は、登録者数 183 名で実施した。例年は館内各所でスポットガイド的な解説業務やスクールの補助活動、朗読会や工作会などを行っているが、今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、タッチタンクでの解説のみに限定し活動した。年間活動延べ人数は 156 人、総活動延べ時間は 235 時間 30 分であった。

イ 南極観測船ふじのボランティアは、解説ボランティア（12 名）とメンテナンスボランティア（1 名）、海洋博物館は、解説ボランティア（2 名）とペーパークラフト工作教室指導員ボランティア（1 名）の登録がある。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため活動を休止していた期間もあったが、南極観測船ふじは、年間活動延べ人数 66 人、総活動延べ時間 145 時間 34 分、海洋博物館は、年間活動延べ人数 10 人、総活動延べ時間 26 時間 40 分であった。

⑥ 研究会・ゼミナール等の開催（資料 3 及び 5）

ア 共同研究講演会は、水族館とも共同研究を行っている東海大学海洋学部環境社会学科の吉田弥生特任助教を招聘し、「都会な名古屋港にイルカが来る?! ～スナメリを音で探してみたらいい話～」(参加者 98 名)を実施した。

イ 名古屋港を職場とする方々を対象に、各界で活躍中の諸氏を講師に招き、港湾行政や海運の動向、変りゆく港の役割などを幅広く学んでいただく「名古屋港港湾ゼミナール」は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止した。

⑦ 指定管理施設（水族館）を活用した海洋生物の展示等（資料 5）

海洋生物の展示にあたってはテーマに沿った計画を策定し、生物の健康と飼育環境管理を適正に行い、生物の特性を引き出す展示を行うとともに、飼育担当者

や解説ボランティア等による解説等を行った。なお、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、イベント及び解説活動は制限して実施した。

ア イルカパフォーマンス、シャチの公開トレーニングは新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、スタンド席の観覧人数を制限して実施した。また、ゴールデンウィーク及び夏休み期間中は、それぞれのイベント時間を短縮しながら実施回数を増やし、来館者の密状態の回避に努めた。

イ 来館者が操作する展示やモニターは、昨年度に引き続き、可能な範囲で接触型から非接触型に変更した。

ウ シャチ「ステラ」「リン」「アース」の3頭の展示を継続し、併せて公開トレーニングをメインプールにおいて実施した。「リン」と「アース」が広いプールを活発に泳ぎ回りジャンプする姿や観覧席の直ぐ目の前に上陸する姿は人気を集めている。11月13日に「リン」は9歳を迎え、体長が4.9m、体重が1.7トンを超えるなど順調に成長し、周期的に排卵が継続している。「ステラ」の排卵も継続しているため、オスの「アース」との分離飼育を適時実施した。10月13日に13歳となった「アース」は体長が5.8m、体重が2.9トンを超え、飼育下で日本最大のシャチとなった。背鰭・胸鰭・尾鰭の各鰭が大きくなり、オスの迫力が感じられる体形に成長している。

エ バンドウイルカの繁殖については、昨年9月にかごしま水族館と共同で同水族館の飼育個体の精液を輸送し、当館の「ゼロ」に人工授精を行い、今年10月にオスの仔が誕生した。仔の生育は順調で令和4年4月に公募により「レイ」と命名した。「ルル」「ハル(3歳オス)」の親子はパフォーマンスに順調に参加している。「ソラ(5歳オス)」「ユウ(8歳メス)」は親離れし、単独でパフォーマンスに参加できている。また、腰部に湾曲的的症状がある「ハッピー(4歳メス)」は、母親の「ウィニー」と一緒に展示プールで飼育を継続しているが、「ゼロ」の仔「レイ」のよい遊び相手になっている。

オ 平成21年に誕生したカマイルカ「アイ」は12歳を迎え、イルカパフォーマンスに継続的に参加している。ジャンプで3回ひねりを入れる種目「垂直バレルロール」をイルカパフォーマンスで公開し、引き続き好評を得ている。バンドウイルカとの交雑を避けるため単独飼育を実施していた「ニック(オス)」を、ブリーディングローンで4月に越前松島水族館へ貸し出している。

カ 平成29年に新設した「ごまちゃんデッキ」において飼育展示していたゴマフアザラシ2頭は、11月にブリーディングローンで上越市立水族博物館へ貸し出し、飼育展示を中止した。

キ 平成19年7月25日に誕生したベルーガ「ナナ」、平成24年8月2日に誕生した「ミライ」は、共に順調に成長し、それぞれ7月と8月に14歳と9歳を迎えた。北館2階及び3階の「オーロラの海」は9月13日から3月25日まで天井工事のため観覧制限を行った。天井工事以外の期間、トレーニングの様子を解説する「ベルーガ公開トレーニング」は観覧スペースが狭いので、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため平日に1日1回の実施とし、ベ

ルーガの生態を更に分かりやすく紹介する目的で実施しているイベント「ルーガの不思議な魚の食べ方」は中止した。

ク 「黒潮大水槽」で実施するイベント「マイワシのトルネード」は、お客様同士の間隔を空け、CO2 濃度の測定、換気循環の改善に取り組み、照明と音楽を時節ごとに変更し、来館者の好評を得た。

ケ 公式ホームページでは、トピックスの頻繁な更新、飼育員が書き上げる「スタッフブログ」など最新情報の発信に努め、今年度のホームページアクセス件数は 1,045 万件（昨年度 933 万件）となった。また、フェイスブック、インスタグラムなどの SNS への投稿にも努め、今年度末のフェイスブックのフォロワー数は 39,740 人（昨年度 32,032 人）、インスタグラムのフォロワー数は 68,278 人（昨年度 55,678 人）となった。

コ マスメディアに対しては、話題性ある情報提供ができるよう積極的なニュースリリース及び取材対応に努め、55 件のニュースリリース（昨年度 44 件）と 535 件の取材対応（昨年度 513 件）を行い、多くのマスメディアに取り上げられた。

サ 夏期間、年末・年始、春休みは、休館日に臨時営業し、集客に努めた。また、ゴールデンウィーク、お盆及び土日祝日には、新型コロナウイルス感染症対策のため、事前予約制の導入や電子チケットの告知を積極的に行った。また、ゴールデンウィーク及び夏休み期間には夜間営業とともに「夜間割引」を行い、今年度の入館者数は 1,316,628 人（昨年度比 142.8%）となった。

シ 令和 4 年度は、名古屋港水族館開館 30 周年に当たることから、30 周年のロゴマークを制定し、地元企業などから事業協賛を積極的に募るなど、30 周年に向けた取組を行った。

## ⑧ その他

新型コロナウイルス感染症対策として、水族館に来館されるお客様や従業員の安全・安心、生き物の飼育業務維持のため、財団職員及び関係園館に勤務する従業員とその同居家族を対象に、当館において新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施し、約 1,500 人が接種した。

## ⑨ 指定管理施設（海洋博物館・南極観測船ふじ等）を活用した海事に関する展示等（資料 3 及び 7）

海洋博物館及び南極観測船ふじにおいて所蔵している海事に関する資料を展示公開することにより、海事思想にふれあう場を提供し、来館者への海事思想普及を促した。

ア 企画展として「名古屋海洋博物館のお宝展～今年は南極特集～」は、南極観測船ふじが昨年度に開館 35 周年を迎えたことから、南極特集のお宝展として南極観測船ふじにちなんだ展示を行い、開催期間中は 28,158 人の人出で賑わった。

イ 特別展として「南極に渡った動物たち ～子猫のたけしからの挑戦状～」の

開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、令和4年度に延期とした。

ウ 水族館の特別展「豊かな海をいつまでも～旅する水とめぐる海洋ゴミのいま～」の開催に合わせ、ポートビル3施設（展望室、海洋博物館、南極観測船ふじ）にサテライト会場としてSDGsに関する展示を行い、ガーデンふ頭諸施設の回遊性の向上に努めた。

エ ポートビル2階においては、回廊ギャラリーを一般市民に展示会場として開放し、無料休憩施設であるポートハウスにおいては、しおかぜコンサートを実施した。回廊ギャラリーは10回、しおかぜコンサートは55回の利用があった。

#### ⑩ 海洋生物等の調査研究（資料5）

海洋生物等の自家採集及び国内外の関係機関と連携して生物収集を行うほか、血統の登録管理や他園館との生物の交換又は貸借の調整を行うとともに、海洋生物等の飼育研究及び希少生物の飼育繁殖研究、フィールド調査、保護活動等の調査研究活動を実施した。

ア 今年度は、鯨類の繁殖数はバンドウイルカ1個体、ペンギン類の繁殖数はジェンツーペンギン3個体、アデリーペンギン1個体、ヒゲペンギン2個体の計6個体であった。また、今年度はアカウミガメの他にアオウミガメが産卵し、当館では初となるアオウミガメの子ガメが誕生した。

イ 野生動物の教育的展示と種の保存事業の促進を目的に、学术交流協定書を締結している京都大学野生動物研究センター、京都大学霊長類研究所、岐阜大学応用生物科学部、三重大学大学院生物資源学研究科と共同研究を実施した。また、近畿大学農学部、信州大学繊維学部、東海大学海洋学部、岩手大学農学部、東邦大学理学部、神奈川大学理学部、金沢大学環日本海域環境研究センター、高知大学総合研究センター、名城大学農学部、名古屋工業大学大学院工学研究科、岡山理科大学生物地球学部とも共同研究を実施した。

ウ 平成23年8月に開始した名古屋港内のスナメリの出現頻度調査は、一時中断していたが、京都大学農学研究科及び東海大学海洋学部の協力のもと、平成28年度から再開し、共同研究「名古屋港におけるスナメリの周年変動」を継続実施している。11月からは、名古屋ECO動物海洋専門学校との産学協同教育に関する協定に基づく事業として、同校からの調査員の派遣を受け、ポートビル展望室からのスナメリの定期観測を実施している。

エ 学术交流協定を締結している岐阜大学応用生物科学部と三重大学大学院生物資源学研究科から、学芸員課程を履修している学生の博物館実習を受け入れ、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施した。

オ 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、オンライン形式で実施された日本動物園水族館協会、日本水族館協会が主催する各研究会などに参加し、研究発表を行った。

## (2) ガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する事業

### ① 名古屋港観光施設協議会の運営事業を始めとした観光振興事業（資料 6）

ガーデンふ頭地区を中心とした観光施設等が一体的に協力して相互の情報交換や連携を図り、名古屋港の観光情報を広く提供するため、ガーデンふ頭地区観光施設で組織された「名古屋港観光施設協議会」の事務局を務め、例年は名古屋港の観光客誘致に向けた観光推進 PR、誘致営業・宣伝事業等を行うとともに、当財団単独事業としても各種 PR を行っているが、今年度は昨年度に引き続き、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出された時期には集客につながる積極的な活動を自粛しながら、セールス営業を 3 回実施した。

学習旅行として来館された団体や、事前の下見で来訪された教員・旅行社の担当者に対して、ペンギン羽根カード、団体向けかんさつノートなどを進呈して、今後の学校団体誘致及び情報収集に努めた。加えて、名古屋を始めとする近隣地域のホテル・旅館に「名古屋港水族館パートナーシップホテル」として登録していただき、ニュースリリースなど、ガーデンふ頭諸施設の情報、割引券及び案内パンフレット等を提供し、積極的な誘客に努めた。

### ② 情報誌の発行

名古屋港の観光施設の情報を掲載した無料情報誌（「ゴーゴー名古屋港（名古屋港ガーデンふ頭ガイドマップ）」等）を、県内外の各所に配布することにより、名古屋港の観光情報を発信し、来訪者の増加を図った。

### ③ 各種観光団体及び市内交通機関との連携を図る事業

県内の観光関係団体に加入し、県内の観光施設との連携及び情報の共有化を図ったが、同団体主催のイベントは新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となった。また、名古屋市交通局と連携し、市営交通機関利用者に対して、当財団管理施設の入場料の割引を行い、名古屋港への来訪者の増加を図り、この地域の活性化に努めた。

### ④ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）を活用したイベントの開催（資料 7）

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、感染症対策を行った上で、ガーデンふ頭地区におけるイベントの実施、誘致を通じ、港に賑わいを創出し、親しまれる港づくりを推進した。

ア ガーデンふ頭臨港緑園においては、10 月に「名港水上芸術花火 2021」、12 月に「名古屋港 Christmas Illumination 2021」が開催され、県外も含め多くの来港者で賑わった。

イ ジェティ広場においては、ジェティテナント会の販売促進事業として、同広場を活用した集客イベントを実施し、来港者へのサービス向上につなげた。

### ⑤ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）において賑わいの場を提供



する事業

ガーデンふ頭臨港緑園及びジェティの運営を通じ、ガーデンふ頭における賑わいの場を提供した。

ア ガーデンふ頭臨港緑園は、緑地維持業務、花壇整備等の施行により、緑豊かで快適な環境づくりの推進に努めた。また、園内諸施設について、本来の美しい景観を甦らせるよう施設補修を実施した。

イ ジェティにおいては、新型コロナウイルス感染症対策を施し、飲食、物販のスペースを含めた休憩施設としての機能を生かし、水族館を支援するとともに、親しまれる港としての名古屋港の発展に寄与した。

## 2 公益目的事業以外の事業

### (1) 管理運営する施設の利便性を向上させる事業

ミュージアムショップ、レストラン、売店及び自動販売機を運営することにより、公益目的事業の一助とした。

また、平成 26 年 2 月より発足し、生物の保護、繁殖研究等の役割の更なる向上に貢献している名古屋港水族館法人サポーター制度の会員数は、今年度末には 144 社、230 口となった。今年度前半は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響などにより会員数は減少したが、後半にかけては増加した。

### (2) 船員宿泊施設の運営事業 (資料 8)

平成 25 年 10 月より、船員宿泊施設である名古屋船員会館 (ハーバーロジックなごや) の運営を行っている。新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、船員はもとより来港者の宿泊を促し、観光事業の振興の一助とした。

## 3 その他

新型コロナウイルス感染症感染拡大による入館者数の減少を受けて、新たな収入確保に取り組むとともに、企業や団体などの相互誘致、知名度アップなどの目的でイベントを実施した (資料 9)。

### (1) 寄付等の受入れ

#### ① クラウドファンディング (11 月 16 日～1 月 15 日)

昨年度に引き続き、広く一般の方に支援を募るため 2 回目のクラウドファンディングを実施し、支援者に対しては支援額に応じた返礼品を送付した。また、今年度からバックヤード見学などの体験型の返礼品を新たに加えた。

#### ② ガチャ de 寄付

昨年度に開始した生き物たちの暮らしを応援していただく募金「ガチャ de 寄付」は、水族館インフォメーション付近にカプセルステーションを置き、1 回 500 円の寄付を募って、生き物たちの餌代の一部に充当した。

③ ポチっと寄付（8月1日～）

「コロナ禍の中、来館は難しいが寄付をしたい」との声を多くいただいたことから、公式ホームページでオンライン決済による返礼品のない寄付の受付を新たに始めた。寄付金は生き物の餌代の一部に充当した。

④ 名古屋市ふるさと寄附金（ふるさと納税）（10月15日～）

名古屋市のふるさと納税の返礼品提供事業者募集があり、コロナ禍により減少した財団の収入を補うため、大人券1枚・大人券2枚・大人+小中券、年間パスポート(大人)、4施設共通券(大人)、大人券+御朱印帳の6種類を返礼品とする応募を行い、全ての応募品が採用された。

## （2）オリジナル物品等の販売

① 魚朱印の販売

昨年度に開始した水族館版御朱印「魚朱印」（1枚300円）の販売を継続し、生き物たちの誕生日などの記念日等には、オリジナル手作りスタンプを押印した魚朱印を販売した。

② 御朱印帳の販売

名古屋港水族館オリジナル御朱印帳（1冊2,500円）の販売を継続した。

③ オリジナルLINEスタンプの販売

水族館の認知度や海洋生物への親近感の向上を目的としたLINEスタンプの第2弾、第3弾をそれぞれ4月25日、10月13日に発売した（1セット120円若しくは50LINEコイン）。

## （3）イベントの実施

① やとみの金魚すくって★！クリスマス大作戦！！（12月18日）

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため需要が低下した金魚の需要喚起と販売促進を目的に、弥富市金魚漁業協同組合主催のイベント（弥富市と弥富金魚漁業協同組合の共同事業）を開催した。

② 金山総合駅で名古屋港PR活動（12月9日～11日）

名古屋港管理組合と合同で金山駅利用者に対して、ガチャ de 寄付の設置や水族館動画の送付などで名古屋港及び水族館をPRした。